

【8】産ヲ延ヒ詰之秘符

写1通

〔書名よみ〕さんをのびつめのひふ 〔伝授者〕鏝堯

〔伝領者〕尊岸 〔写刊年次〕文政四年（一八二二）九月

〔内題〕産ヲ延ツメノ秘符

〔その他〕（包紙）産ヲ延^{ツメ}ヒ詰之秘符

〔残欠状況〕全 〔保存状況〕小破 〔装訂〕切紙 〔紙数〕一枚

〔本文用字〕漢字・片仮名・梵字 〔法量〕縦一一・九×横二六・〇糎

〔料紙〕楮紙 〔書入〕ナシ 〔印記〕ナシ 〔備考〕印信番号

50。護符型紙二点あり。包紙あり。包紙題の右下に「役氏 尊岸」と墨書あり。

〔奥書〕

撰州於大坂授之

寛政十^{戊午}年三月 求法沙門大宜坊

僧正法住七十七歳宥実

于時

寛政十一^{己未}年五月 授之

金剛仏子玄識房鏝堯

豊愛染院主

阿闍梨法印宥実

文政四巳年九月授之 智教房尊岸

伝師法印鏝堯

〔解題〕

本書は、出産の日を、早める祈祷の方法を記したものである。安産を祈りつつ、「其後、又ハヤ子ウマセント思ハ、右守ヲ取カエシテ守カエル也」とあつて、早く、出産を終えられるように願うための符とその方法が記してあるものである。

奥書を見ると、この「秘符」の伝授は、三段階に記されている。

①寛政十年三月 撰州於大坂授之

求法沙門大宜坊 僧正法住七十七歳宥実

これは、寛政十年（一七九八）に、大坂において、七十七歳の大宜房宥実が伝授を受けた。伝授を誰から受けたかは不詳である。

②寛政十一年五月授之

金剛仏子玄識房鏝堯

豊愛染院主阿闍梨法印宥実

第二の伝授は、寛政十一年（一七九九）に、宥実から玄識房鏝堯に伝授された記事である。宥実が「豊愛染院主」とあるが、詳しいことはわからない。

③文政四年（一八二二）九月授之 智教房尊岸

伝師法印鏝堯

第三の伝授は、鏝堯から尊岸に伝えられたものである。こうして大坂から津軽へ、「産を延び詰めの秘符」が伝授されてきたのである。

出産に関する祈祷は多く行われる。円覚寺には、尊海のものと思われる切紙の中に「難産ヲ安産ニシル法」がある。参考までに写真を掲載した。小さな「伊勢」の紙は、この様に書いたものを、男の場合は左に持ち、女は右に持つとの口伝を伝える。「伊勢」を男女と読ませ、「男女」の意味を持たせるのは、中世以降、『伊勢物語』の註釈書においてしばしば行われていることである。

（渡辺 麻里子）

産ヲ延ツメ、祕符
 離ニ以
 永以聞香力故 知其初懷妊
 成就不成就 安樂産福子也
 子也
 上書ハ衣ヲ裏ニ 文字書
 加持ハ不動愛添准照易産咒
 但シ生セサル間ハ心經七卷ツカリテ
 可法樂ニ其後又ハヤ子ウニセント
 思ハ右守ヲ取カエシテ守書カレ
 也其書様ハ以ノ字ノ上ニ永ヲ離メ
 書福子ノ引ヲモ離メ書ク也
 寛政十戌 午年三月 撰列於大坂授之
 求法沙門 大宜坊
 僧正法住ニ七歳 宥實
 于時 寛政土巳 未年五月 授之
 金剛仙子 玄識房
 豐愛添院主 鑲光
 阿闍梨法印宥實
 文政四巳年九月 授之 智教房
 傳師法印鑲光

尹辨

難産ヲ安産ニル法
 五ノ長サセテ 伴婦
 主キ光明真言三
 反唱工 清水ヲ以産
 人ニ吞セ
 石口傳有り
 男ハ左ニ持出リ
 女ハ右ニ持出リ
 以上

産ヲ延ヒ 誥之祕符
 授氏 尊年